

# 令和元年度園芸品目 生産拡大に向けた取り組みについて

園芸部



本県の園芸品目生産数量は、天候不順や高齢化による生産基盤の縮小などにより、減少傾向となっております。その一方で、大規模生産者の作付拡大や後継者の新規就農・営農組織での園芸品目導入など積極的な取り組みも増えていきます。

このような事業環境を踏まえ、本会では、各種対策をJAと一体となり講ずることで、園芸品目の生産拡大と生産者の所得増大に取り組んでまいります。

**【令和元年度基本方針】**  
 ■生産基盤の維持・拡大とマーケットインによる生産振興  
 ■「オールいわて」での販売強化と物流網の整備

園芸生産の拡大に向けた「生産振興」と「生産者所得の増大に資する販売強化」に取り組みます。とりわけ、重点市場・重点販売先から求められる園芸品目を生産振興し「オールいわて」での販売を強化します。

実施具体策としては、「生産規模別拡大対策」「反収向上対策」「加工・業務用野菜生産対策」「園芸品目導入対策」とあわせ、各JAにおける「最重点推進対策」を設定し、大型園芸生産者を核として、地域複合的に生産拡大をすすめます。

このことを実現するために、本会では「園芸産地確立事業」および「直接販売の拡大」により安定販売を実現することで、園芸生産に取り組む生産者を支援します。また、岩手県が実施する「いわて型野菜トップモデル産地創造事業」を積極的に活用し、生産者・JAとの連携を強化することで、野菜販売額「1億円」の産地作りに挑戦します。



レツトライ  
クッキング!

Let's try **4** orders  
cooking

## 中華味の “たっぷり夏野菜”と鶏肉

料理監修/高橋ヒサ子

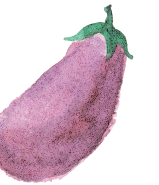
管理栄養士・いわて糖尿病療養指導士

### ▼材料(2人分)

- 鶏むね肉…100g
- 塩、こしょう、小麦粉…適量
- なす…2本
- ピーマン…1個
- パプリカ(赤・黄)…各1個
- 揚げ油…適量
- スナップえんどう…6本
- A(オイスターソース…適量、コチュジャン…少々、酒、みりん…各大さじ1)

### ▼作り方

- ①鶏肉は好みの大きさに切り、塩・こしょう、小麦粉をまぶして揚げる。
- ②なす、ピーマン、パプリカは乱切りにし、素揚げする。
- ③スナップえんどうは筋を取り、塩ゆでしておく。
- ④Aを煮立てた中に①②③を入れ、からめて仕上げる。



タイトルのKlara (クララ) は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

純情産地発 KLARA vol.840 7  
クララ 2019



### contents

Let's try cooking	02	消費地だより	07
特集 令和元年度園芸品目 生産拡大に向けた取り組みについて	03	営農支援レポート	08
イベント情報	06	純情むすめ決定	09
		ニュースワイドアングル	10



重点実施策	実行具体策	令和元年度目標
1. 直接販売の拡大	(1) 予約相対販売の強化 (2) 買取販売の拡大 (3) 重点産地への直送販売の強化	直接販売：73 億円 買取販売：9 億円 量販店直送：15 億円
2. 加工・業務用野菜の拡大	(1) 重点加工業務会社との連携強化 (2) 冷凍用大玉ブロッコリーの産地づくり	販売金額：7.1 億円 販売数量：7,000 t 試験栽培：20 a
3. 反収向上に向けた 営農指導強化	(1) 園芸産地ネットワーク部会での生産・技術課題の解決と 新技術普及 ・環境制御装置導入による反収向上 ・水稻育苗ハウス等での園芸栽培システム導入	装置導入：3 件 システム面積：5 a 増
4. 青果物段ボールの 材質適正化による コスト低減	(1) 段ボール原紙構成の見直し	2品目 ほうれんそう 生しいたけ
5. 産地と消費地を効率的に繋ぐ 物流網の整備	(1) 物流課題に対応した輸送体制の整備 (2) パートナー市場への出荷拡大	継続実施：1 J A シェア：78%

## 1. 生産基盤拡大対策

- (1) 生産規模別拡大対策
  - ア. 新規生産者の生産継続性対策
  - イ. 生産規模に対応した支援対策
  - ウ. 園芸農業法人への出資による規模拡大支援
- (2) 反収向上対策
  - ア. 反収向上のための技術実証と普及促進（園芸産地改革ネットワークを活用し県・J A 営農指導員と連携）
  - イ. 実証展示圃設置（品目毎）
  - ウ. 施設園芸における最新技術導入（環境制御技術等）
- (3) 加工・業務用野菜の生産拡大
  - ア. 重点3品目（キャベツ・レタス・タマネギ）の生産拡大・契約栽培推進
  - イ. 大玉ブロッコリーの試験栽培（輸入量の多い園芸品目の国産化）
  - ウ. 機械化系の導入（たまねぎ）を目的とした農機レンタルの実施



JAグループ・県知事トップセールス(H30)

## 3. 生産コスト削減対策 (トータルコストの削減)

- (1) 生産性の改善・反収向上による収益向上策の推進
- (2) 流通資材の材質適正化（段ボール原紙構成の見直し）

## 4. 行動計画



量販店バイヤーの収穫体験(H30)



全農乾椎茸品評会(団体優勝)(H30)



フラワーコンテスト(H30)

### ■現状の取り組み状況

年度	品目	産地	
平成30年度	長ねぎ	奥州市	1億円産地事業
〃	ミニトマト	盛岡市	環境制御装置導入事業
〃	ミニトマト	花巻市	〃
〃	トマト	一戸町	〃
令和元年度	にんにく	八幡平市	1億円産地事業
〃	ピーマン	花巻市、遠野市ほか	〃
〃	トマト	一関市	〃



冬恋試食会(H30)



ういづOne(ミニトマト栽培)

## 5. 「いわて型野菜トップモデル産地 創造事業」について

岩手県では、高収益を生み出す野菜の作付け拡大を通じた「農家所得の向上」と「野菜販売額1億円産地の創造」を目的とした「いわて型野菜トップモデル産地創造事業」に平成30年度から取り組んでいます。

### (1) 事業内容

次の項目について必要な経費助成事業をおこなっています。

（補助率は国1/2、県1/8、市町村1/8）  
ア. 機械化体系の確立した土地利用型野菜の

- エ. 買取販売の強化
- (4) 営農組織（集落営農・営農法人等）への積極的な園芸品目導入提案
  - ア. 水稻育苗ハウス活用提案
  - イ. 加工・業務用野菜導入提案
  - ウ. 買取販売の強化
- (5) J A 別最重点推進対策
  - ア. J A 別に最重点推進対策（重点推進品目の必達生産面積を設定）
  - イ. 買取販売の強化
- (6) 「いわて型野菜トップモデル産地創造事業」活用による野菜販売1億円産地の形成
- (7) 全県重点品目および地域特産品目の生産拡大
  - ア. 全県重点品目…きゅうり・トマト・ミニトマト・ピーマン・なす・キャベツ・ねぎ・ほうれんそう・レタス・アスパラガス・しいたけ・りんご・りんどう・小菊（以上14品目）
  - イ. 地域特産品目…J A 別に設定
- (8) 労働力支援対策
  - ア. 外国人実習生受け入れ生産者支援

- イ. 各J A の優良事例の共有化
- (9) 本会育苗センター機能を活用した優良苗供給の拡大
- (10) 岩手県版G A P の取り組み強化

## 2. 販売強化対策

- (1) 重点市場・重点量販店への「オールいわて」としての責任供給体制強化
- (2) 直接販売（予約相対取引・直接契約取引・買取販売）の拡大
  - ア. 重点市場（パートナー市場）への予約相対販売拡大
  - イ. 重点量販店への直送販売強化
  - ウ. 加工・業務野菜取扱事業者等との連携強化
- エ. 買取販売の拡大
- (3) 重点市場・重点販売先と連携した販売促進対策の拡大（岩手フェア・産地交流会）
- (4) 生産技術向上による品質クレームの抑制、品質クレームへの対応力強化
- (5) 物流課題に対応した物流体制の整備
  - ア. 「出荷計画の精度向上」と「標準パレット積載量」の順守による輸送効率の向上
  - イ. J A 域内を超えた施設利用の検討
  - ウ. 市場集約によるトラックの確保
- エ. 積込み・荷下し時間の短縮によるドライバー拘束時間の厳守
- オ. 「農産物パレット推進協議会」と連携した青果物パレット輸送の拡大

### 拡大

イ. パイプハウスの整備による果菜類の拡大

ウ. ハウス栽培で植物の生長を最適な状況に保つ

環境制御技術の導入

本年度からは、パイプハウスのほか災害に強く周年栽培を可能とする耐候性ハウスの導入も可となりました。また、事業要件のひとつに協議会を立ち上げること（生産者、実需者、関係機関）となっており各地で協議会が設立され始めています。今後も新たな事業採択に向け、数産地が調整に入っています。引き続き、県・J A と二体となり事業活用の推進を積極的に行っていく予定です。



# 毎月行われるイベントを紹介！ Monthly Event Introduction



## 7月開催予定イベント

7月2日	営農支援部	第2回TACアグリビジネススクール
7月8日	営農支援部	岩手県施肥合理化協議会総会
7月22日～26日	園芸部	岩手県産花き展示フェア
7月23日～24日	営農支援部	東北ブロックTAC管理者研修会
7月26日	園芸部	「いわて夏野菜フェア」キックオフイベント
7月27日	園芸部	「いわて純情野菜トップセールス」
7月29日	園芸部	「いわて純情りんご」販売対策会議
7月31日	営農支援部	特別栽培農産物認証審査委員会

スケジュールは変更になる場合があります

## 第2回TACアグリビジネススクール

営農支援部

【日時】7月2日(火)  
【場所】全農岩手県本部 純情産地営農支援センター

担い手農家・TAC(JA・県域)・関係部署担当者を対象に、「第2回TACアグリビジネススクール」を開催。営農技術・地域振興・経営等に関する知識取得や事例等の共有を図り、担い手の課題解決への支援を強化します。当日のカリキュラムは、「農業ICT」や「アビネス/アグリインフォ(営農情報提供サービス)」、「施設園芸のCO2施用」などについてです。

## 岩手県産花き展示フェア

園芸部

【期間】7月22日(月)～26日(金)  
【場所】大田市場(東京都)、名港市場(愛知県)、鶴見市場(大阪府)

主要品目である「りんどう」「小菊」を中心とした県産花きを市場にて展示し、実需者へのPRを目的に旧盆、彼岸前に需要期向けフェアを実施します。また、県産花きへの期待や要望等について、市場買参人との意見交換会も行います。9月2日～6日には彼岸フェアを開催する予定です。



昨年の様子

## いわて純情野菜 トップセールス

園芸部

【日時】7月27日(土)

「いわて純情野菜」の出荷最盛期を迎えるにあたり、販売強化を目的に消費地でのトップセールスを開催します。岩手県副知事、JA岩手県五連会長、JA組合長らが出席し、出荷本格化を迎える夏野菜をPR。昨年、買参人の方から好評を得た試食提供を今年も実施し、「いわて純情野菜」を代表する野菜を提供します。



昨年の様子

純情ブランド消費地の「今」をレポートします。

## 消費地販売部

# 消費地だより

## ピーマン販売担当者にインタビュー

7月に入り、野菜も各品目で出荷が増え始め、いよいよ岩手の時期が来たな！と感じているこの頃です。中でも本県重点品目の1つである「ピーマン」は今年度も県内各地で大きく面積を増やしており、注目を集めております。今月は大田市場にてピーマンの販売担当としております、「東京青果(株)森田主任」と「東京青果(株)日高課長代理」にインタビューをおこないました！



消費地販売課  
菅原 大展

「いよいよ岩手の時期がやってまいりました！令和もどうぞよろしくお願ひします。はじめに、岩手のピーマンの立ち位置について教えてください。」

森田「やはり夏秋期のシェアNo.1産地！東京都中央卸売市場でも全体の4割を岩手が占めており(7、9月)、同時期で面積を拡大している産地も岩手だけで、今一番の注目産地です。」

「ありがたきお言葉！夏場のピーマンの供給責任産地として期待されているわけですね。そんな岩手のピーマンの魅力は何かですか？」

日高「何より岩手県内の北から南まで、各産地で生産されていることが一番の魅力かな。例えば一産地でも出荷が少ない時も、オールいわての農産物でフォローすることが出来る。競合産地の茨城や福島は一産地地しか作っていないからね。」



右:森田主任、左:日高課長代理

森田「アイテムが小袋、大袋、バラ出荷と豊富な魅力ですね。お客様のニーズに応じて様々な提案がしやすいです。」

「なるほど。確かに本州一の面積を誇る岩手だからこそ、できる強みかもしれませんね。主な販売先はどこになるのでしょうか。」

森田「大手量販店から加工業者まで色々な業種へ販売していますが、一番力を入れているのは「オーケー」(※1)ですね。」

日高「荏原青果としては「ヤオコー」(※2)かな。ピーマンだけでなく、岩手は多種多様な品目を持っているため、きゅうりやトマトなどの他の果菜類や、キャベツなどの葉物とセット販売の提案ができることも岩手の強みだよな。」

森田「うーん、出荷初期の「尻腐れ」(※3)ですかね。生産者や選果場で検品してもらっているのは承知のうえですが、」

日高「尻腐れが目立ってしまい、前段産地の茨城から岩手への切り替えができず、チャンスロスしている点は否めなかなあ。」

森田「本県産ピーマンの大きな課題ですね。かん水設備の導入推進等で改善に努めておりますが、検品や品質管理には今一度、注意してまいります。」

森田・日高「無限ピーマン！」

「簡単に作れておいしいですよ！ピーマン嫌いなお子さんでも食べられて、名前のとおり「無限」に食べることができます。試食宣伝等でも活用して、消費者の方にもピーマンの様々な食べ方を広めていきたいです。それではインタビューの最後に、生産者の皆さんにひとことお願いします！」

## 無限ピーマンの作り方

●材料  
ピーマン5個、シーチキン1缶、鶏がらスープの素小さじ1、ごま油小さじ1、塩コショウ少々



- 作り方
1. ピーマンの種を取り、細切りにします。
  2. ピーマンに油をきったシーチキン、鶏がらスープの素、ごま油、塩コショウを加えてよく混ぜます。
  3. 電子レンジで2分間加熱すれば出来上がり。ごはんによく合います！

※1.. 神奈川県横浜市に本社を置くスーパーマーケット  
※2.. 埼玉県川越市に本社を置くスーパーマーケット  
※3.. 果実の先端(しり)の部分黒褐色になる生理障害のこと

日高「生産者の皆さまが作っていただくことが全てのスタートです。消費地で販売している責務を背負いながら、頑張っていますので、精いっぱいの出荷をよろしくお願ひします！」

森田「産地から市場、販売先まで一体となって、販売努力をしています。暑い日が続きますが、体調管理に気を付けながらの出荷をよろしくお願ひします！」

「ありがとうございます！今年度も産地一丸となり、ピーマン含め「いわて純情野菜」の出荷に努めてまいります。本年度もどうぞ、よろしくお願ひいたします。」





接遇研修の講師・後藤のりこさんと



# いわて純情むすめが 決定しました。

6月20日、21日に  
事前研修を行いました

今年は、生産者と消費者に、  
より身近に感じていただける様々な活動を通じて、  
幅広い世代へ「純情産地いわて」をPRします。

- ① 趣味・特技
- ② 好きな言葉
- ③ 純情むすめになつての意気込み



きくち あやめ  
菊池 彩女

- ① カフェ巡り
- ② 「一期一会」  
どんな出会いも全てに意味があって大切だと思えるからです。
- ③ まだまだ未熟ですが、活動していく中で知識を深め、より多くの方々に岩手県産農畜産物の素晴らしさを伝えられるように精一杯努めます。  
笑顔絶やさず、親しまれる純情むすめになれるように頑張りますので、応援よろしくお願いします。



さわが あいり  
瀬川 愛里

- ① バスケットボール、旅行
- ② 「一期一会」  
私は、人との出会いは人生において転機になる、貴重な機会と考えています。一度の出会いがある人にとっては特別なものになるかもしれない。それは私にとっても相手にとっても同じです。一度きりのきっかけや関係性を誠意を持って対応したい。大切にしたい。そんな思いがあります。
- ③ 岩手の誇り、郷土を伝える代表の自覚を持って1年間取り組んで参りたいと思います。小さい頃から紫波町で育ち、ずっと親しんできた郷土の食材や雰囲気が好きです。岩手県内は広く、さまざまな文化や郷土感があります。惜しみなく拾って全国にお届けします。



うちだ ありさ  
内田 有紗

- ① 趣味：ライブに行くこと、博物館巡り  
特技：目玉リレー
- ② 「やらずに後悔するよりやって後悔」  
やってみようと思ったことが自分にはハードルが高くて迷ってしまった時に、一歩踏み出したことでもとてもいい経験ができました。それから何事も挑戦してみる事が大切だと思ったからです。
- ③ いわて純情むすめとして大好きな岩手をPRする機会をいただきとても嬉しいです。生まれ育った岩手の美味しい農畜産物、美しい自然はもちろん、人の温かさを自分の活動を通して県内外に発信していきたいです。笑顔絶やさず自分自身も成長出来るような1年にしたいと思います。どうぞよろしくお願いします！



なかむら えりか  
中村 絵里香

- ① 音楽鑑賞、ギター
- ② 「ありがとう」  
感謝の気持ちを伝える大切な言葉で、自分が人に伝えるときも、人から伝えられるときも嬉しくなるからです。
- ③ 岩手には、おいしい食べ物や豊かな自然など、たくさんの魅力が詰まっているので、岩手の良さをより多くの人に知っていただけるように、これから一生懸命活動していきたいです。よろしくお願いします。



ちば ゆいな  
千葉 唯愛

- ① ハンドボール・写真
- ② 「笑う門には福来たる」  
何事にも笑顔で取り組むことで、自分も周りも、明るい雰囲気を楽しむことができると思うからです。常に笑顔絶やさず、明るく元気に活動していきます。
- ③ 私はとても岩手が大好きです。豊かな自然や、暖かい人々、広大な土地ならではの地域特有の文化など、岩手にはたくさんの魅力があるからです。大好きな岩手の、語り尽くせないほどの魅力を地域の方々に、また、全国の方々に伝えていきたいです。



モデル経営体による取り組み成果発表

生産者と共に奮闘する  
営農支援部の活動をレポート

# TRY! 営農支援 レポート

## 岩手県農家手取り最大化プロジェクト 成果発表会について



営農支援課  
山本 優乃

J A 全農いわては、去る6月14日に奥州市江刺農業活性化センターにて「岩手県農家手取り最大化プロジェクト成果発表会」を開催しました。

本会が、前期3か年(平成28年〜30年度)における自己改革の最重要課題である「農家組合員の所得増大・農業生産の拡大」の実践のために、県内2 J A で計11経営体をモデル経営体として設定して取り組んだ「農家手取り最大化」実践メニューの成果を広く周知させ、今次3か年で県内全域に同取り組みを水平展開させることを目的に開催したものです。

農家組合員や、県内 J A の営農担当者ら約100名が出席。本会藤村副本部長は、「前期3か年の取り組みで得られた成果をこの場の全員で共有し、さらに多くの農家組合員へ水平展開していくことで、 J A 自己改革を確固たるものにしていく。今回参加された皆さんにとって実りある成果発表会にしたい。」と挨拶しました。

本会営農技術課高橋先生による、「水稲高密度播種育苗移植」や「鉄コーティング直播栽培」等の取り組みメニューの技術検証報告の後、前期モデル経営体を代表して J A いわて中央管内から紫波町の(有)高橋農



本会藤村副本部長による挨拶

産、 J A 新いわて管内から八幡平市の(農)ユニファーム七区の2経営体より、その取り組み成果を発表いただきました。

(有)高橋農産の高橋信代表取締役は、「土壌診断の必要性は感じつつもやってこなかったが、全農の提案で実施した結果、診断に基づいた高窒素肥料の導入で肥料費、労力軽減ができた。自動給水機は、出水時間・量の調節ができて非常に便利。全圃場に導入したいくらいだ。」とその成果を実感していました。(農)ユニファーム七区の高畑武己代表理事は、「モデル経営体となることに不安もあったが、コスト低減は避けて通れない問題であり参加した。育苗ハウスを二次利用した『ういずOne』の取り組みが、地域の雇用にもつながり非常に喜ばれている。今後も地域に貢献できる法



農業散布用ドローンのデモ飛行

人作りをしていきたい。」と語りました。

また、当日の研修メニューとして全農本所スマート農業推進室平野室長が、「営農管理システムZIGIS」を核とした全農の目指す農業ICTの取り組みについて講演し、参加者は熱心に耳を傾けていました。

閉会後には、会場近くの圃場で農業散布用ドローンのデモ飛行を実施、「2019 J A いわてグループ農業機械フェア」と同時開催ということもあって、多くの生産者が見学を訪れ大盛況でした。

今次3か年の初年度である令和元年度は、県内全7 J A で計9経営体をモデル J A に選定して「農家手取り最大化」の取り組みを水平展開していきます。実践する中で新たに覚えてきた課題もありますが、今後も農家組合員を第一に考え、現場に寄り添ってすすめていきたいと思ひます。





## ●食の楽しさを次世代へ

令和元年6月5日(水)

### 令和元年度岩手県食育普及啓発キャラバン

JA全農いわては、6月の「食育月間」に合わせ、岩手県や歯科衛生士、栄養管理士と共同で県内の保育所を訪問し、「食育普及啓発キャラバン」を実施しました。この取り組みは、県内の保育園で絵本の読み聞かせや歯磨き指導を行い、子供たちへの食育の普及を図ることを目的としています。

6月5日(水)には出発式が岩手県庁で行われ、参加した盛岡幼稚園の園児による標語の読み上げや踊りが披露されました。

その後キャラバン隊は岩手町立沼宮内保育所へ出発し、食育普及活動を行いました。JA全農いわてからは「いわて純情むすめ」と「じゅんきくん」が参加し、食べ物に関するクイズと「純情体操」を披露。園児たちは「いわて純情むすめ」、「じゅんきくん」と一緒に「純情体操」を踊り、笑顔でハイタッチや握手を交わしました。

JA全農いわては、こうした取り組みを通じ、子供たちへの食育普及活動に貢献していきます。



出発式の様子



楽しそうに「純情体操」を踊ってくれました

## ●JAグループと農家、2人3脚の営農支援

令和元年6月14日(金)

### 農家手取り最大化プロジェクト成果発表会

JA全農いわては、6月14日に「農家手取り最大化プロジェクト成果発表会」を行いました。「農家手取り最大化プロジェクト」は、農家の持続可能な農業生産・農業経営の確立を実現するため、県内からモデルJA・経営体を選定し、平成28年～30年度の3か年を通して「農家手取り20%アップ」を目指した取り組みです。農業経営のコスト削減・手取り増大に向けて、主に下記のような実践メニューが取り組まれました。

- ① 大型規格農業の導入による、物財費削減
- ② 農業機械を活用した省力化による労働費低減
- ③ 営農最新技術の導入による生産性向上

岩手県からは2JA(JA新いわて、JAいわて中央)、11経営体がプロジェクトに取り組み、農業経営者の成果発表や、今3か年に向けたプロジェクトの課題共有等が行われました。岩手県のモデル11経営体全体の農業所得の合計値は、28年度に比べ25.7%アップを達成し、目標設定値を上回る成果が得られました。

成果発表を行った農事組合法人ユニティファーム七区代表取締役の高畑武巳さんは、「地域農業が時代に取り残されることなく繁栄することを通して、地域に雇用を生み続けていきたい」と述べました。

令和元年～3年度の3か年の取り組みでは、7JA9経営体のモデルを選定し、「農家手取り最大化」に向けた取り組みを継続していきます。



成果発表会の様子



編集  
後記

思っていたよりも涼しい時期だった6月が終わり、早くも7月に突入です。今月から、「2019いわて純情むすめ」の5名が始動します!今年の衣装は「赤」を基調とし、「Let's TRY!純情産地いわて」に合わせ「挑戦」かつ「エネルギー

シュ」をイメージしました。気になる衣装の様子は「いわて純情むすめ」Facebookをぜひチェックしてみてください。これから1年間よろしくお願いたします!

(井戸川)

## ●牛乳消費拡大へ 3000本無料配布!

令和元年5月31日(金)

### 「牛乳の日」牛乳無料配布イベント

JA全農いわて・岩手県牛乳普及協会・岩手県は、6月1日の「牛乳の日」と6月の「牛乳月間」に先立ち、5月31日(金)、酪農業への理解・関心を高めてもらうことを目的に、岩手大学で県産牛乳と牛乳月間のPR活動を行いました。

当日は、いわて純情むすめと関係者らが、学生に県産牛乳や理解醸成リーフレット等を配布し、牛乳の消費拡大を呼びかけました。同大学でのPRイベントは今年で4回目。1,500本の牛乳を配布しました。

配布開始から1時間ほどで牛乳はなくなり、牛乳を受け取った学生からは「牛乳が好きなので嬉しい」「牛乳を飲む機会は少ないが、牛乳を飲む良いきっかけになる」との声が挙がりました。

同日には、JR花巻駅で300本・水沢駅で400本・一ノ関駅で800本の計1500本の牛乳が、JAいわて花巻、JA岩手ふるさと、JAいわて平泉の職員らにより各駅前配布されました。



牛乳を配布する2018いわて純情むすめ(岩手大学にて)

## ●県産花き生産販売強化を目指して

令和元年6月5日(水)

### 令和元年度花き販売対策会議

JA全農いわては、6月5日(水)に盛岡市内のホテルにて「令和元年度花き販売対策会議」を開催しました。各JAや生花会社、運輸会社などの43名が参加し、「生産基盤の維持・拡大とマーケットインによる生産振興」、「『オールいわて』での販売強化」を本年度の基本方針として掲げ、具体的な販売対策について協議しました。

本会 高橋司副本部長は、「昨年度は天候不順の影響で出荷量が伸び悩んだが、販売単価に恵まれた。今年度は反収向上の対策を強化し、生産者やJA、生花会社や運輸会社らと一体となり、産地づくりを目指していく」と話しました。

本年度は花き全体として販売数量700千ケース、販売高35億円(どちらも前年対比109%)を計画しています。この計画達成に向け、生産基盤拡大と販売強化において下記の対策をすすめることを確認しました。

- 新規生産者の生産継続や反収向上のための技術の実証や普及
- 水稲育苗後のハウスを活用した新技術の導入
- 直接販売(予約相対取引、買取販売)の拡大



## ●最先端の農業機械を紹介!

令和元年6月14日(金)～6月15日(土)

### JA農業機械実演展示会

JA全農いわては6月14日(金)～6月15日(土)、JA江刺本店前特設会場にて、県内の農家の機械化営農支援・低コスト農業機械を促進することを目的として、「JA農業機械実演展示会(2019JAいわてグループ農業機械フェア)」を開催しました。JAグループが取り扱う農業機械メーカー・肥料農薬メーカー42社が出展し、ご来場される農家の方々に向けた農機の展示や各種相談コーナーが設けられました。会場では、最新技術を搭載した農機や農薬散布用ドローンの実演紹介も行われ、多くの来場者が機能説明に熱心に耳を傾けました。

開会セレモニーでは、本会藤村明智副本部長が、「農家組合員の所得増大・生産基盤の拡大のために、今回の農機展示会を通じて低コスト機械化営農の更なる普及につながることを期待している」と述べました。

来場者は、2日間を通して述べ1687名。昨年に引き続き、多くの来場者で賑わいました。



来場者でにぎわう会場(6月14日(金)JA江刺本店前特設会場にて)



**全農**

**LET'S TRY!**  
純情産地いわて!!

純情産地いわて  
は日本産果の  
ん

JA全農いわて  
から  
の  
こ  
の  
こ  
の  
こ  
の  
こ

**純情産地  
いわて**  
since 1989

もっと届け、全国の食卓へ!  
更なる決意を胸に、私たちはこれからも挑戦し続けます。

**JA全農いわて**  
<https://www.junjo.jp/>



私たち全農グループは、  
**生産者と消費者を  
安心で結ぶ懸け橋**  
になります。

- 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。 —
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
  - 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
  - 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

